平成27年度「全国学力・学習状況調査」における
皿倉 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語，算数，理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

⑴ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

⑴ 教科に関する調査（国語，算数，理科）

主として「知識」に関する問題（A）	主として「活用」に関する問題（B）
・ 身につけておかなければ後の学年等の学 習内容に影響を及ぼす内容 ・ 実生活において不可欠であり、常に活用で きるようになっていることが望ましい知識・技能	・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・ 様々な課題解決のための構想を立て実践 し、評価・改善する力

⑵ 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

皿倉 小学校 「平成27年度　全国学力・学習状況調査」の結果について

1．教科に関する調査結果の概要

① 学力調査（国語A・B，算数A・B，理科）結果

		国語Ａ	国語Ｂ	算数Ａ	算数Ｂ	理科
平成２５年度	本市	60．3	46．3	74．6	56．5	
	全国	62．7	49．4	77．2	58．4	
平成２６年度 （理科：平成24年度）	本市	69．1	52．6	76．2	55．4	59．7
	全国	72．9	55．5	78．1	58．2	60．9
平成２７年度	本市	67．1	62．1	73．3	43．7	57．3
	全国	70	65．4	75．2	45	60．8

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的に，全国平均正答率を下回っていた。言語についての知識理解の基礎ができていないことが大きな原因である。 ・漢字の読み書きと書く力を問う問題に課題があり，漢字の書き取りと文章を書くことを習慣化する必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・聞き方の説明として適切なものを選択する。	
	努力が必要な問題	・漢字を読む。『承知』『招く』 ・コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全体的に，全国平均正答率を下回っていた。 ・分かったことや疑問に思ったことを整理し，それらを関係付けながらまとめて書く問題に課題がある。 ・問題形式について，短答式の正答率は高いが，記述式の正答率が低い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・2ーイ ［イ］に入る言葉として適切な内容を書き抜く。	
	努力が必要な問題	・目的や意図に応じ，取材した内容を整理しながら記事を書く問題や，文章と図とを関係付けて，自分の考えを書く問題の正答率が低く，無解答率が高い。	

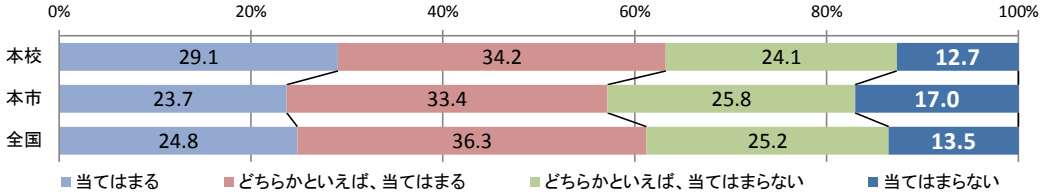
算数A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っており、円や円と三角形の関係の問題が特に無解答率が高く、誤答も多かったため、図形についての理解が定着していないことがはっきりした。 ・算数の計算について，特に減法・除法の力が不足しており、基礎的な計算力をつける必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・日常生活の中で必要となる時刻を求める問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・示された三角形が二等辺三角形になる根拠となる円の性質を，選択することができる問題の正答率が低く，無解答率が高かった。	

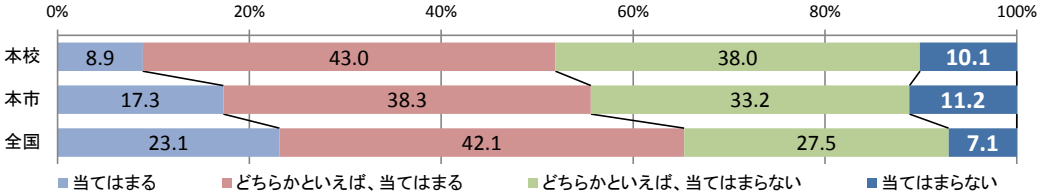
算数B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均をわずかだが、上回ることができた。応用問題に対しても、苦手意識を持たず、粘り強く取り組むことができるようになった。 ・時間が足りずに最後まで解くことができない児童が多く，時間配分に工夫をすることが必要である。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・単位量あたりの大きさを用いて，目的に応じた買物の仕方を選択し，代金を求める問題の正答率が高く，無答がなかった。	
	努力が必要な問題	・正三角形の性質や合同な三角形の性質を基に，アの角が30度になる理由を記述する問題の正答率が低く，無答率が高かった。	

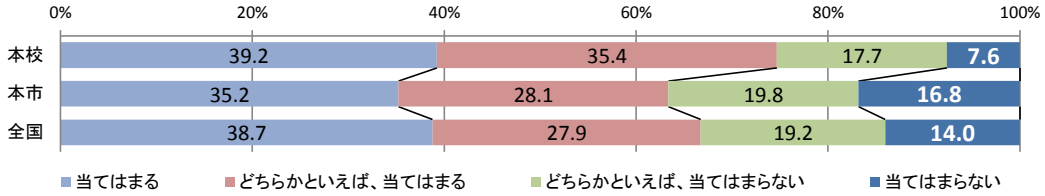
理科	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っており，ほぼ全ての領域において正答率が低かった。 ・観察，実験の器具について，適切な操作技能に関する知識の定着に課題がある。 ・観察，実験を通して，適切な操作技能を身に付けさせるとともに，変化と要因との関係付けを考察させていく必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・水の温まり方の予想を基に，温度計が示す温度が高くなる順番を選ぶ問題の正答率が高く，無解答がなかった。	
	努力が必要な問題	・メスシリンダーで一定量の水をはかり取る適切な扱い方を選ぶ問題の正答率が著しく低くかった。	

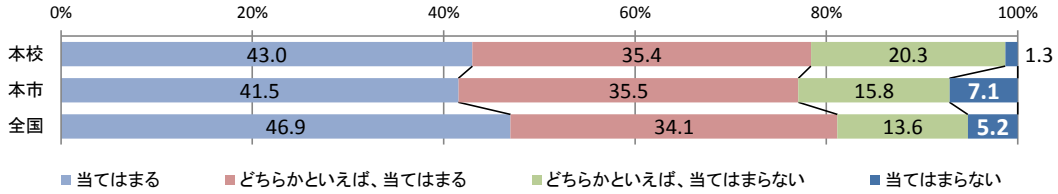
③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号	質問事項
48	国語の勉強は好きですか。
53	国語の授業で目的に応じて資料を読み，自分の考えを話したり，書いたりしていますか。
58	算数の勉強は好きですか。
60	算数の授業の内容はよく分かりますか。

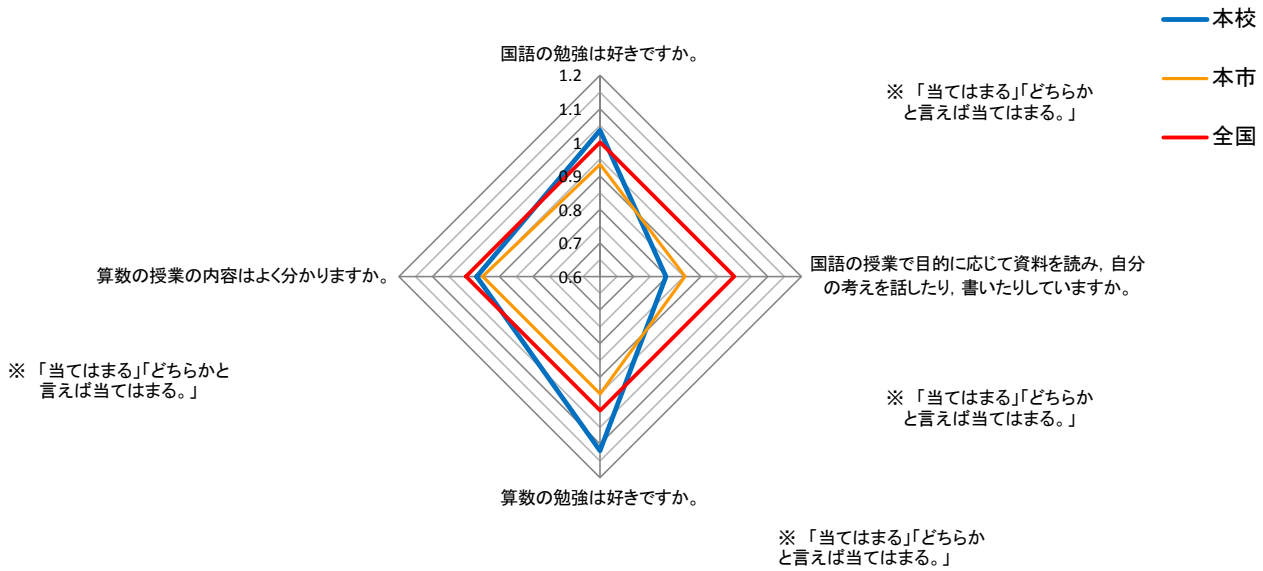








④ 本校と本市の対全国比（全国を1とする）



⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

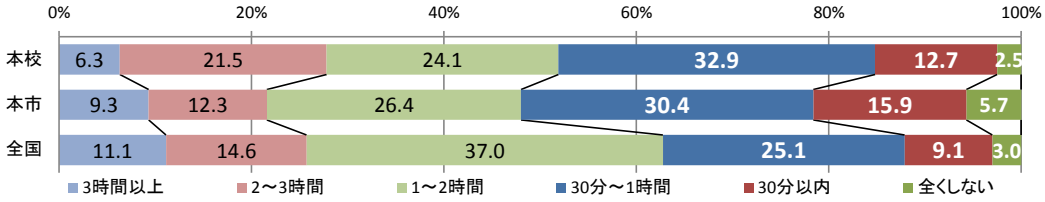
『国語の学習は好きですか』で，「好き」もしくは「まあ好き」と答えている児童は，全国と比較して上回っている。しかし，『国語の授業で目的に応じて資料を読み，自分の考えを話したり，書いたりしていますか』で「当てはまる」「まあ当てはまる」と答えている児童が全国平均を大きく下回っていることから，国語科の授業内容の工夫や，朝学習等に位置づける反復練習の取組や，家庭における読書や一言スピーチの取組等にも力を入れていくことで，国語力をつけ，自信を持つことができるようにしていかなければならない。

同様のことは算数科にも言える。算数が好きな児童の割合は全国と比較して上回っているが，『算数の授業の内容は分かりますか』の問いに対し，「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる。」と答えている児童の割合が減ってきている。このことから，算数は好きだが，授業の内容を理解できていないことが分かる。しかしながら，算数が好きな児童は依然多いことから，発問の工夫と教材教具の効果的な提示や，公式やきまりのよさを伝えながら授業を行い，授業内容への理解を深め，少人数指導の充実を図ることで，若干の改善が見られ算数Bでは全国平均を上回った。

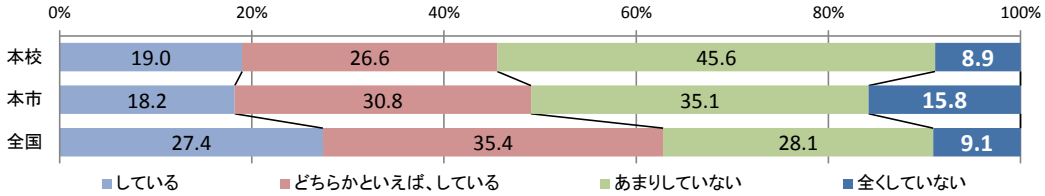
2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果

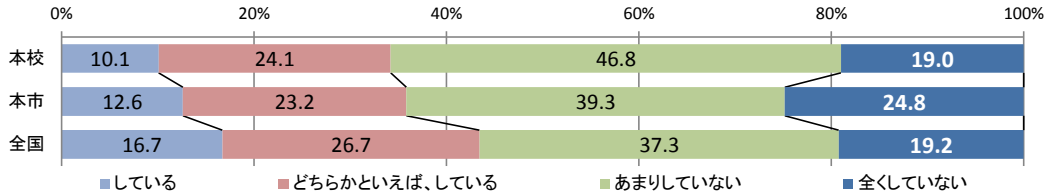
質問番号	質問事項
13	学校の授業時間以外に，普段(月曜日から金曜日)，1日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含みます。)



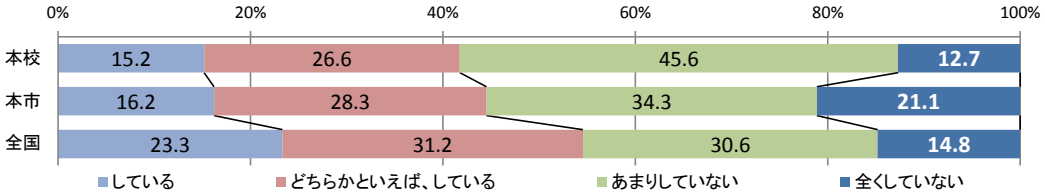
20
家で，自分で計画を立てて勉強をしていますか。



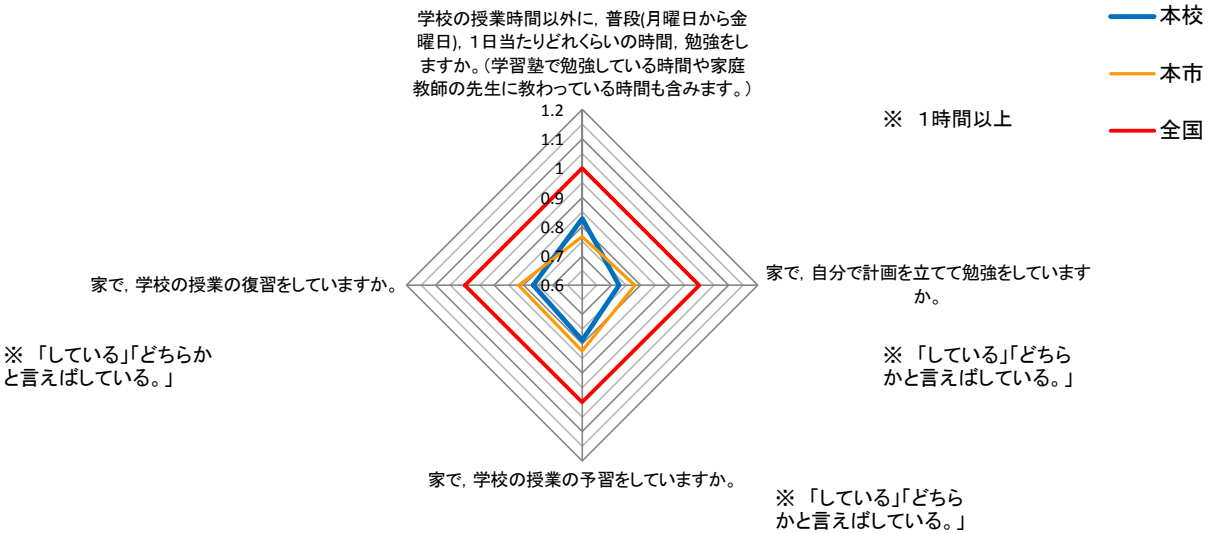
22
家で，学校の授業の予習をしていますか。



23
家で，学校の授業の復習をしていますか。



② 本校と本市の対全国比（全国を1とする）

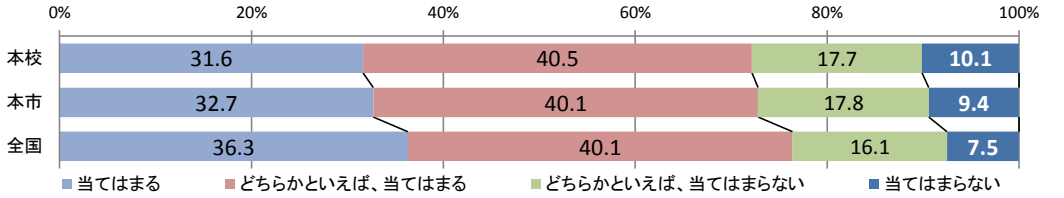


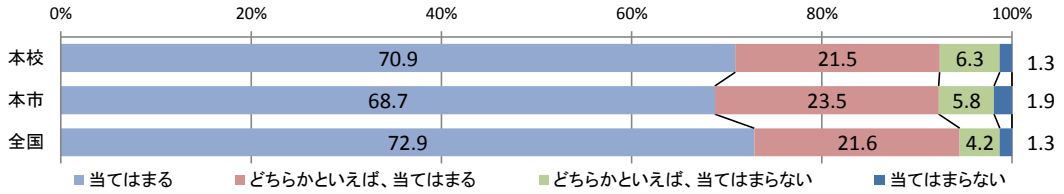
③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

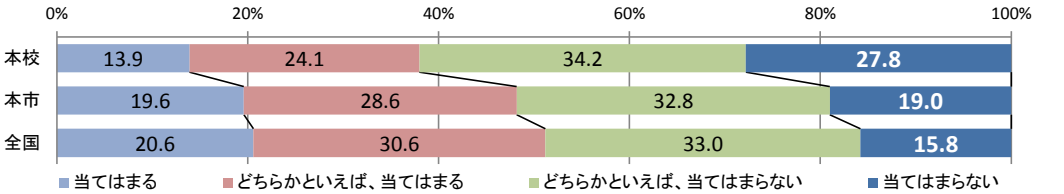
・2時間以上家庭学習をしている児童の割合は増加し，全国平均を上回ったが，その反面，家庭学習が1時間より少ない児童の割合も全国平均より多く，家庭学習をしている児童としていない児童との差が大きくなってきているという課題が見られる。今後も更に，家庭学習について全校で時間のめやすを明確に示したり，チャレンジハンドブックや自主学習ノートの有効な活用方法を掲示するなど，家庭学習の具体的な取り組み方を指導していく。
・『自分で計画して学習に取り組んでいる』児童の割合が低く，宿題以外でには学習に取り組んでいないことが課題である。このことから，予習復習など自分で考えて学習する態度が定着していないということが分かる。今後は，自主学習に多く取り組んでいる児童を紹介することで，自主学習のポイントを自分なりにもち，見通しをもって取り組めるようにするなど，授業と家庭学習が相互に関連し，効果的になるようにする。

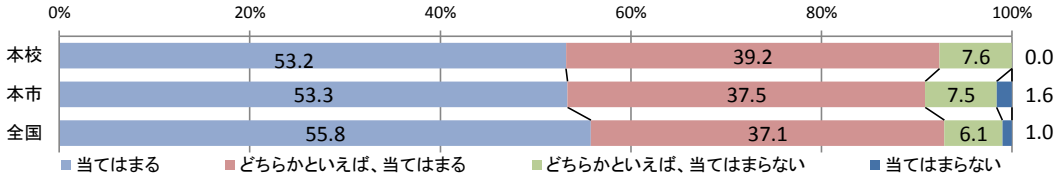
④ 生活習慣等に関する調査結果

質問番号	質問事項
6	自分には，よいところがあると思いますか。
4	ものごとを最後までやり遂げて，うれしかったことがありますか。
7	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だですか。
8	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。

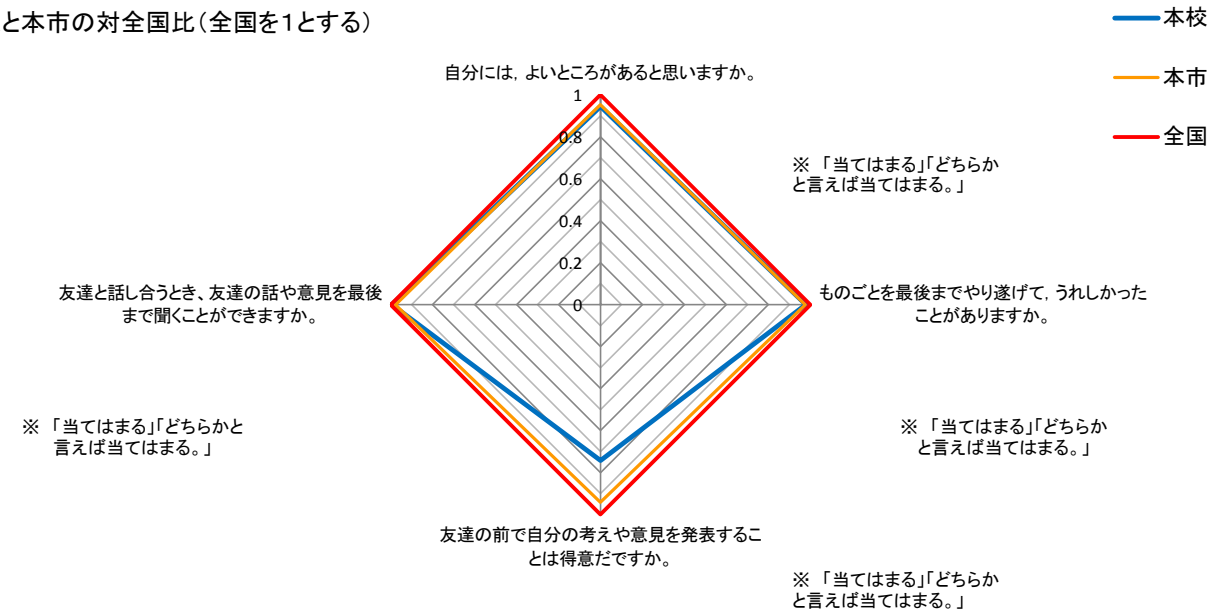








⑤ 本校と本市の対全国比（全国を1とする）



⑥ 生活習慣等に関する調査結果の分析

・年々自尊感情が低下してきている。反面，成功体験には素直にうれしいと感じることができている。よって，成功体験を重ねていくことにより，自尊感情の向上につなげていく必要がある。
・『友達の前で自分の意見や考えを発表することが得意である』という割合が低く，『友達に伝えたいことをうまく伝えることができる』ことが苦手だと考えている児童が多い。言語活動の充実を図り，語彙を増やすと共に，考えをまとめるためのスピーチの時間を設定するなど，伝えるための言葉を豊富にすることにより，コミュニケーションの能力を高めていく必要がある。
・学級や全校で『ひまわり』の一斉音読に取り組み，人前で声を出すことに慣れ，みんなで声をそろえる楽しさを味わうことで，発表することに対する苦手意識をなくしていく。

３．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組（全校・学年・学級・教科毎の取

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

◎ 主題研修を国語科『基礎的・基本的な学力をもった皿倉っ子の育成を目指して』として、学力向上に努めている。
◎ 学力向上のための特設時間の実施
・朝学習（週3回，火・金曜日の国語に関する学習の時間と水曜日の算数に関する学習の時間）を全校一斉に実施
・国語辞典，漢字辞典を効果的に使うために，朝学習の金曜日を「語句調べ」や「視写」の時間として設定する。
・小中連携サポーター・・・計画的な配置，朝学習の更なる少人数指導，活動補助，プリント整備。
◎ ・『読書ノート』を児童一人一人に持たせることにより，本を読む習慣化を図る。
◎ 過去問題，アシストシートの活用
・アシストシートやWEB問題を授業の導入や朝学習で使い，基礎基本の徹底を図る。
・アシストシートと過去問題を冊子にして，夏休み・冬休み・春休みの宿題とする。
〇 「書く」ことを習慣化
・学習の最後の3分間を「振り返りタイム」として，振り返りを書くようにする。
〇 漢字の書き取りの時間の確保
・朝学習や，授業開始の数分間を利用した，漢字基本シートによる熟語の読みと書きの習熟を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

◎ 宿題の習慣化を学校で話し合い，統一する。（時間，学年別・教科別内容の決定）
・校内で学年の宿題内容を確認し，学年×１０分をめやすとした量と内容を宿題とする。
・学年内で話し合い，重点をおいた単元の内容に関して宿題を継続して出すことなどを確認し，学級間で差が生じないようにする。
・「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用する。
・『「家庭学習チャレンジハンドブック」の約束』を作成し，家庭への協力と継続を働きかけるとともに、毎月一週を確認週間と位置付け，読書記録や月ごとの目標について声かけを行っていく。
・自主学習ノートの有効活用のため，努力している児童の自主ノートを、背面黒板やろう下に掲示するなどして賞賛し，他の児童へ紹介するとともに，どのような自主学習が学力向上につながるかを児童が理解できるようにする。
・家庭学習マイスター賞応募を呼びかける。
・夏休み・冬休み・春休みの宿題に，過去問題やアシストシート，WEB問題を活用する。
◎ 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知する。
・学校だより，学校HP，学級懇談会や個人懇談会で，結果と取組を説明し，家庭と連携し協力体制を整える。